

緑区

世帯：4,947 世帯
面積：2.056 km²

桶狭間学区

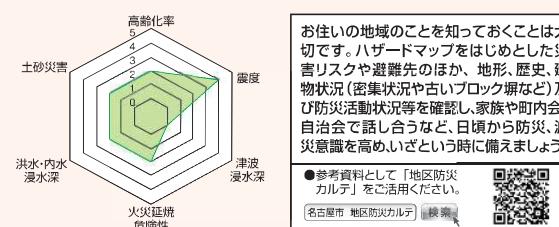
人口：12,852 人
(令和2年12月1日現在推計人口より)

桶狭間学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されております。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起さないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	16.7%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100～500棟未満	2
洪水・内水浸水深	0.5m～1.0m未満	2
土砂災害	警戒区域に人家10件未満	2



火災から命を守るために「今」できること

● 住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。
火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。
また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。



● 住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくといざという時に役立ちます。



● 感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感じると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。
不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

◆ まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心活動します。(安否確認、声かけなど)

◆ 災害の恐がなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆ 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。



避難先へ安全に避難するための5つのポイント



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。



避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心掛けましょう。

